

三宅島の火山活動解説資料

気象庁地震火山部
火山監視・情報センター

＜噴火警戒レベル 1（活火山であることに留意）に引き下げ＞

噴火は 2013 年 1 月 22 日以降発生していません。火山ガス放出量は、長期的に減少傾向にあり、2013 年 2 月以降はやや少量となっています。また、火山性地震は少ない状態で経過しています。これらのことから、噴火が発生する可能性は低くなったものとみられ、本日、14 時 00 分に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを 2（火口周辺規制）から 1（活火山であることに留意）に引き下げました。

【防災上の警戒事項等】

火口内での噴出現象が突発的に発生する可能性がありますので、山頂火口内¹⁾及び主火孔から 500 m 以内では火山灰噴出に警戒が必要です。

また、火山ガスの放出は続いていますので、引き続き火山ガス予報で火山ガスの濃度が高くなる可能性があると思われる地域では警戒してください。

○ 活動概況及び防災上の警戒事項

三宅島では、噴火は 2013 年 1 月 22 日以降発生していません。

多量の山ガスの放出が長期間続いていましたが、緩やかに減少しており、2013 年 9 月以降は 1 日あたり 500 トン以下で経過しています。山頂直下の浅部を震源とする地震は概ね少ない状態で経過しています。これらのことから、三宅島では噴火が発生する可能性は低くなったものと考えられます。

なお、現在も山頂火口内では、主火孔における噴煙活動及び火山ガスの放出が継続していることから、規模の小さな噴出現象が突発的に発生する可能性があり、山頂火口内及び主火孔から 500m 以内では、引き続き火山灰噴出に警戒が必要です。

6 月 2 日には、伊豆・小笠原諸島火山防災協議会の三宅島関係機関の会議が開催され、警戒範囲が縮小された場合の三宅村の防災対応が確認されました。

以上を受けて、本日 14 時 00 分に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを 2（火口周辺規制）から 1（活火山であることに留意）に引き下げました。

1) 山頂火口内とは、雄山山頂にある火口及び火口縁から海岸方向に約 100m までの範囲を指します。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ (<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東京大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び東京都のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『2 万 5 千分 1 地形図』『数値地図 25000 (行政界・海岸線)』『数値地図 50m メッシュ (標高)』を使用しています (承認番号：平 26 情使、第 578 号)。

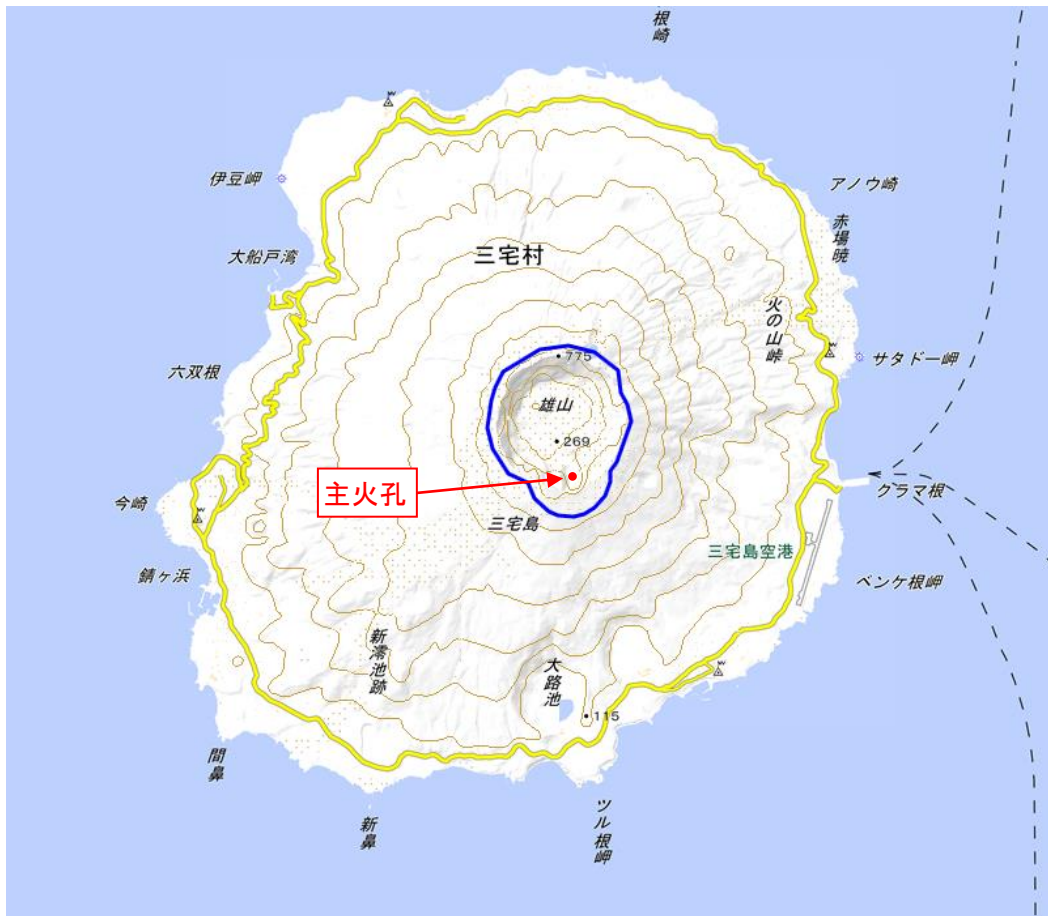


図 1 三宅島 警戒が必要な範囲
・青線が山頂火口及び主火孔から 500m の範囲

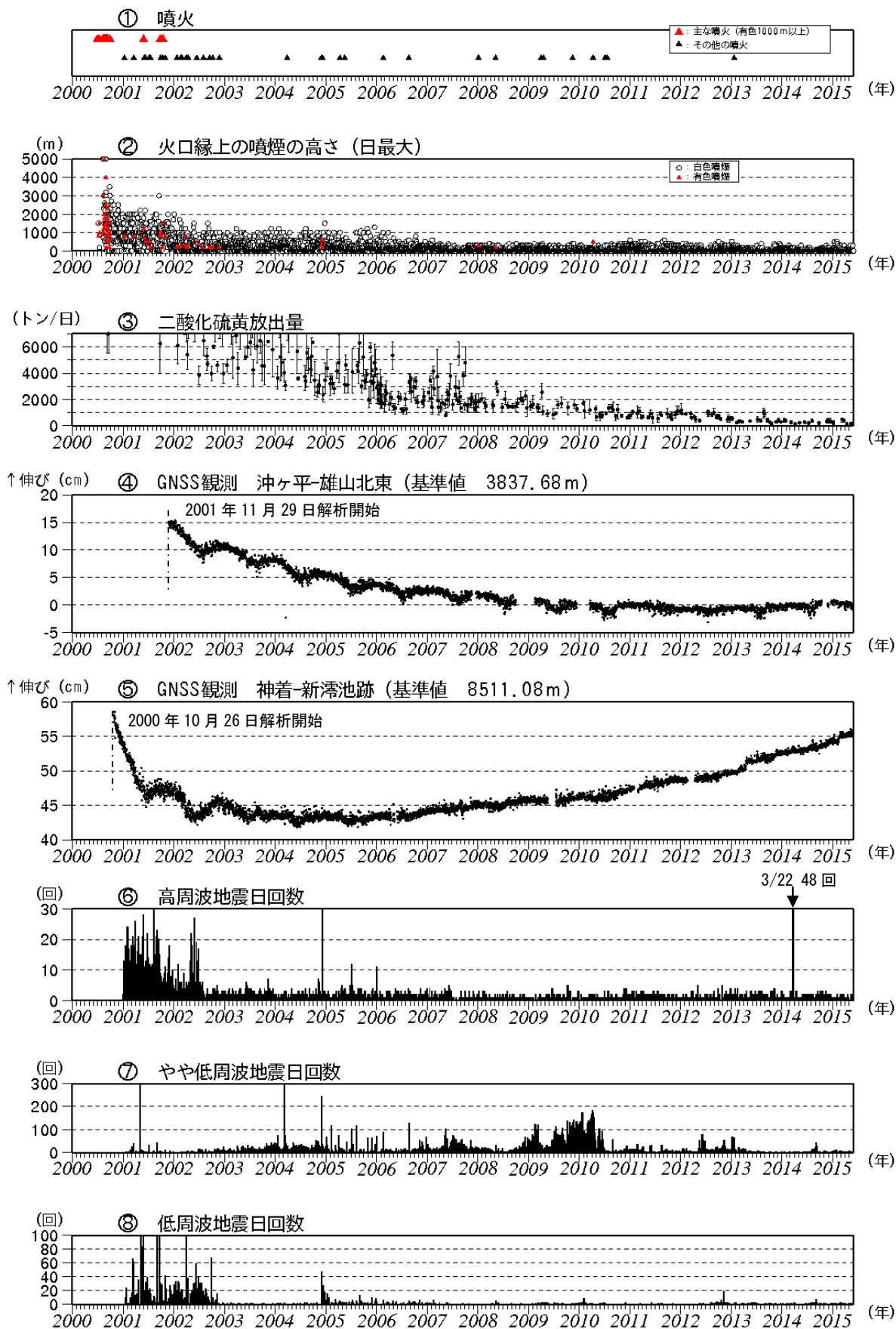
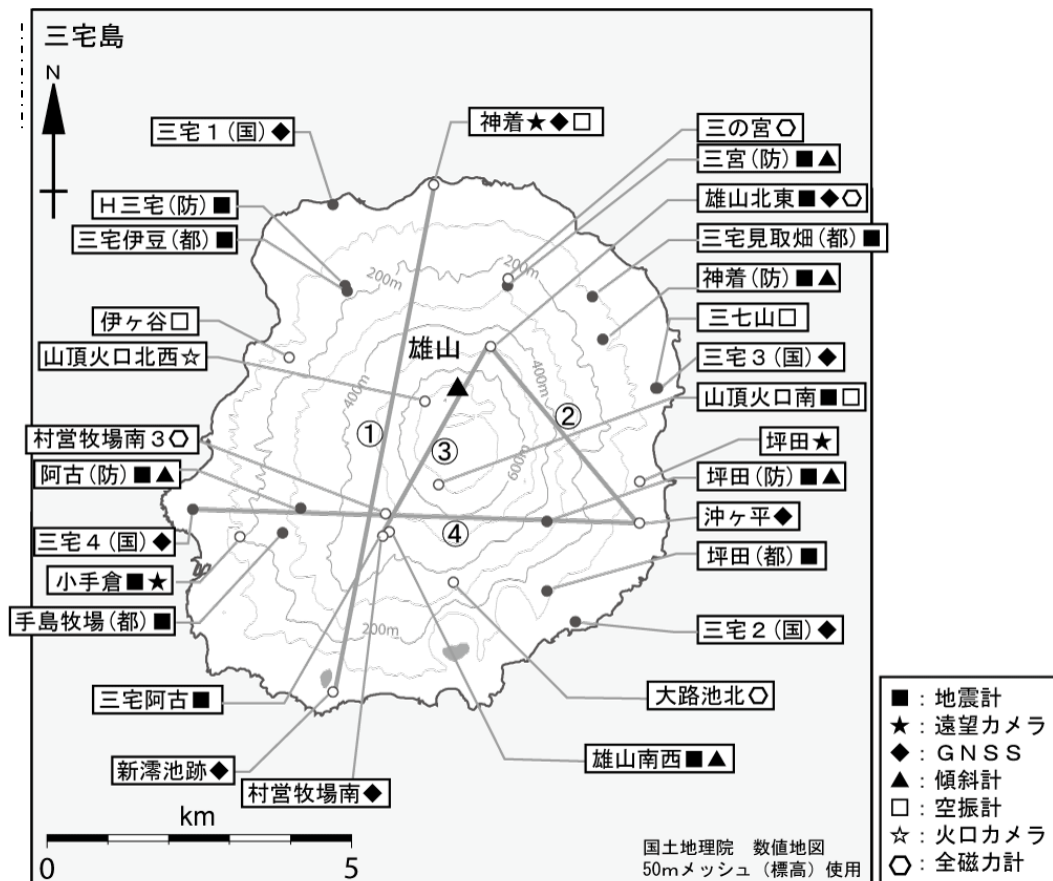


図 2 三宅島 火山活動経過図 (2000 年 1 月 1 日~2015 年 5 月 31 日)

※図の説明は次ページに掲載しています。

- ・③は、2005 年 11 月まで、海上保安庁、陸上自衛隊、海上自衛隊、航空自衛隊、東京消防庁及び警視庁の協力を得て作成しています。また、2000 年から 2004 年にかけては一部のデータがスケールオーバーしています。
 - ・④及び⑤の 2010 年 10 月以降のデータについては、電離層の影響を補正する等、解析方法を改良しています。④及び⑤の基線は図 2 (観測点配置図) の②及び①にそれぞれ対応します。グラフの空白部分は欠測を示します。
 - ・⑥、⑦及び⑧は、地震の種類別に計数を開始した 2001 年 1 月 1 日からのデータを掲載しています。
- * 火山性地震の計数基準を変更しました。
- 2012 年 7 月まで：雄山北東の上下動成分で最大振幅 $12\mu\text{m/s}$ 以上
 - 2012 年 8 月～11 月：雄山南西の上下動成分で最大振幅 $5.5\mu\text{m/s}$ 以上
 - 2012 年 12 月～：雄山南西の上下動成分で最大振幅 $6.0\mu\text{m/s}$ 以上



小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
(国)：国土地理院、(防)：防災科学技術研究所、(都)：東京都

図 3 三宅島 観測点配置図

- ・①②は図 2 の GNSS 基線⑤④にそれぞれ対応します。